12しぐさの日本文化（多田道太郎）

　 ―人と人とが出あうさい、まず共通の場を設定、確認しあう。……一見ばかばかしく見える挨拶の本質がここにある。

　ある東京人は京都の旅館で、ちょっと外出するさい「おようおかえりやす。」と言われ、い、次いで腹をたてたそうである。

　「早く帰ろうが遅く帰ろうがおれの勝手じゃないか。」と彼は思ったわけである。（　Ａ　）これはその人の勘違いである。「お早ようおかえり」というのは、旅立ちの祈りの挨拶に似たもので、実質的な内容はないのである。

　つまりは、東京では京都よりも、挨拶の体系がかんたんになってきており、したがって、［　　　Ⅰ　　　］人びとがふえてきているということだ。

　これと逆になるようだが、ルターニュの①寒村では一老人が「近ごろの若いもんはボン・ジュール（こんにちは）も言わない。」と嘆いていた。

　私は「ここでもまた」という②微笑を禁じえなかった。

③老人が「ボン・ジュール」に与えている意味を、若者は（　Ｂ　）これにみとめていないのである。

　ということは、慣習の体系をみとめないということでは必ずしもなくて、現代社会では、慣習の体系を極小化してもやっていけるほど法体系がきびしく人びとを規制する――そして規制することで人を保護するようになってきたということなのである。（中略）

　法依存が強まるにつれ、慣習の体系はかなりのていど縮小化され、あるいは変質していく。

　（　Ｃ　）「お早ようおかえり」を奇異に思う人びとが、「頑張ってきて」といった挨拶は奇異には思わない。それは、今日の集団的無意識が「頑張る」、つまりは［　　　Ⅱ　　　］ことに盲目的価値をおいているからなのである。

　「ガンバレ」ではじまったこの慣習が「お互いにガンバロウ」に変わり、ちかごろでは［　　　Ⅲ　　　］という孤独のきに変わってきているのは、それ自体、「無意識」の短期歴史的変貌として興味あることである。

＊語注

＊ブルターニュ…フランス北西部、ヨーロッパ大陸の北西に突き出た半島にあり、北はイギリス海峡と接している地域。

問１　（　）Ａ～Ｃに入ることばとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。（同じことばは二度使わない。）

ア　もはや　　　イ　しかし　　ウ　たとえば

Ａ＝（　　　）　　Ｂ＝（　　　）　　Ｃ＝（　　　）

問２　［　］Ⅰに入る最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　挨拶を挨拶とうけとれない

イ　挨拶には深い意味はないと思っている

ウ　挨拶はしなくていいと思っている

問３　――線部①の意味として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　かつて栄えた村

イ　さみしい村

ウ　寒い村

問４　――線部②の意味として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　微笑してしまった。

イ　微笑がこおりついてしまった。

ウ　微笑すらできなかった。

問５　――線部③の説明として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　自然のを感謝しあう。

イ　また会うことを互いに約束する。

ウ　共通の場を確認しあう。

問６　［　］Ⅱに入る最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　獣性を発揮する

イ　個人を犠牲にする

ウ　エネルギーを出しきる

問７　［　］Ⅲに入る最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　「ガンバラなくっちゃ」

イ　「ガンバっても無理無理」

ウ　「ガンバってどうするの」

【解答】

問１　Ａ＝イ　Ｂ＝ア　Ｃ＝ウ

問２　ア

問３　イ

問４　ア

問５　ウ

問６　ウ

問７　ア

ポイント

問２　挨拶の本質は、「人と人とが出あうさい、まず共通の場を設定、確認しあう」ことにあって、実質的な内容はない、と筆者はいう。

問５　挨拶の本質がわかっている寒村の老人は、ボン・ジュールも言わない、「若いもん」のありようを嘆く。